

○外来魚の駆除活動を記録しよう

外来魚の駆除は、その効果を検証しながら進めることが求められています。

駆除の計画づくり、効果的な駆除方法を検討するため、捕獲結果を記録しましょう。

全内漁連では、駆除活動の記録様式を作成したので活用してください。

○記録の取り方

◇産卵床

産卵床を保護している雄親魚の駆除数、または卵を除去した産卵床や破壊した産卵床の数を記録する。

◇仔稚魚～成魚

駆除結果を魚種別に、尾数、重量について数量をそれぞれ記録する。

- ・ オオクチバス・コクチバス及びアメリカナマズは、発育段階ごと（仔稚魚、未成魚、成魚）に区分するが、ブルーギルは区分しなくてもよい。
（発育段階の区分は魚種ごとに、全長が異なりますので、詳細は記録様式を参照のこと）
- ・ 大量に捕獲したときは、発育段階に区分がある魚種は区分ごとに総重量を実測し、別途算出した平均体重から尾数を算出して総尾数とし、総重量、平均体重とともに記録する。
- ・ 平均体重の算出法は、捕獲した魚の一部（60尾程度）を取り出し、その重さを量り、そこに含まれる尾数で割る。
（一部をサンプルとして取り出すときは、魚の大きさやそれぞれの数に注意して、サンプルが偏らないように取り出し、全体の平均が算出できるよう注意する）

○駆除効果の考え方

かけた労力（努力量）と捕獲量の推移に注目する。同じ労力での捕獲量が減ってくれば、その水域にいる外来魚の量が減ったことが示唆され、駆除効果があったと考えられる。仔稚魚が減っていれば繁殖抑制が上手くいっていることが示唆され、平均体長が小さくなってくれば大型魚が減っていることが示唆される。

記録様式は [コチラ](#) [外来魚の駆除実績報告様式](#)

様式1：日誌形式になっているが、水域ごとの1回の駆除活動を記録する。

様式2：様式1に記録された数値を1年分合計して、各水系・河川や湖沼または漁協等の団体名の駆除実績とする。

様式3：漁協等がまとめた様式2（1年間の実績）を合計し、漁連等、都道府県の駆除実績とする。

外来魚4種の見分け方は [コチラ](#) [外来魚4種の見分け方](#)